

日時：平成 20 年 11 月 28 日（火）

会場：TOTO（株）テクニカルセンター 参加者数：29 名

11 月 28 日（火）に今年度 3 回目の会員交流セミナーが開催されました。

今回のセミナーでは、東京都市大学教授 坊垣和明氏より、ご自身の業務の傍ら長年にわたり撮りためられた伝統的民家における環境共生に係わる知恵や工夫についてご講演をいただきました。

会場は、TOTO（株）様のご厚意により、テクニカルセンターの研修室をご提供いただき、併せて TOTO 様の環境への取組みについてもご紹介いただきました。

■伝統民家における環境共生を読み解く

ゲスト講演者：坊垣 和明（独立行政法人建築研究所研究所 研究総括監）

ご講演の冒頭で、坊垣氏はご自身の名前（姓）の由来と地名との関係を通じて自己紹介されました。今回の講演のテーマは「伝統民家における環境共生を読み解く」というものであり、材料やその使い方、形、技術等々、全てにおいて意味があり、当時できる限りの知恵と工夫が凝らされている、という内容でしたが、それが人の姓名に



まで及んでいて、名前ひとつとっても意味を持ちその土地と深い関わりを持っているという、今回のご講演の冒頭に相応しい内容から始まりました。

□伝統民家の環境共生の知恵

講演は最近発行された坊垣氏の著書「民家のしくみ」に基づき、この本の構成に沿って、以下のような内容で組み立てられていました。

①風を防ぎ、利用する

- ・冬の季節風を防ぐ防風林や垣、塀
- ・台風等の強風を防ぐ防風林や構造
- ・風の利用 等

②雨を防ぎ耐久性を高める

- ・壁を守る覆い
- ・雨を凌ぐ 等

③雪から守る

- ・暮らしを守る通路、出入口の工夫
- ・建物を守る囲い
- ・雪の利用 等

④光を調整し取り入れる

- ・高窓、天窓から取り入れる
- ・光を導く装置
- ・光を楽しむ 等

⑤暑さや寒さを凌ぐ

- ・陽射しを遮る並木・植栽

- ・日射を反射する壁・屋根
- ・モードを変える 等

⑥空気を調整する

- ・湿気対策
- ・排煙・排気
- ・養蚕と室内気候の調整 等

⑦水の利用

- ・池と水路
- ・水を引き込む
- ・雪を融かす 等

⑧火事を防ぐ

- ・類焼を防ぐ
- ・漆喰で固める
- ・火元を離す 等

これらについて、坊垣氏ご自身が撮影された膨大な量の写真を示しながら、わかりやすく紹介していただきました。

□低炭素社会に向けて

講演の締めくくりとして坊垣氏は

- ・日本の住宅建築は 200 年超は少なく、本当に古い建物はそれほど多くない
- ・低炭素

社会のための動きは、ようやく始まったばかりである

・高度成長期以降、置き去りにしてきた数多くの技術や知恵から学ぶべきことは多い

・低炭素社会に向けては、革新的な技術の出現・活用は不可欠であるが、それに加えて、伝統技術、既存技術を融合させることが重要である

といった、これからの住まいと暮らしにとって大変重要なヒントを提示されました。このヒントを受け、それを実現していくことが我々に求められています。



■環境への取組み

ゲスト講演者：清水 康利（TOTO 株式会社 環境経営統括部 部長）

つづいてTOTO（株）環境経営統括部 部長 清水康利氏よりご講演いただきました。

冒頭の会社概要では、TOTOの歴史を辿っていくと、名古屋の森村組（現 ノリタケ）に行き着き、大正3年に国内初の腰かけ式



水洗便器を製造した、というところまで遡ることができ、まさに衛生陶器の草分け的存在であることを改めて認識することができました。

□環境への取組み

TOTO（株）では、1990年ごろから“環境”に軸足を置いた活動が展開されており、現在は第6次環境保全計画に基づき、「エコ商品の開発」「CO2排出量の抑制」「リサイクル」「ゼロエミッション」等について目標を達成すべく積極的な取組みが行われているとのことでした。

また、環境マネジメントシステムを構築し、これらの取組みをTOTOグループ全体に浸透させ、より効果的に推進していることも紹介されました。

水回り設備に関して言えば、ひとつには地球温暖化対策としてCO2排出の削減が挙げられます。

水回り設備は、製造時（約33kg）よりも使用時（約435kg）の方がはるかに多くのCO2を排出するという点から、また家庭でのCO2排出量割合は、水回り設備は約4割を占めるということから、開発と普及について今後も継続しより一層の推進を図っていくことが示されました。

水資源問題に対しては、単に水量の調整による節水に限らず、微生物発生を抑制したり、表面の汚れがつきにくくなる技術や掃除しやすい形状による節水効果、タンクレスによる一次エネルギー不要による省エネと節水、断続的に水を噴出するウォシュレットで使い勝手をそのままに水量とエネルギーを1/2にするなど、幅広い視点



できめ細かな商品開発が進められていることが興味深い点でした。

社会貢献活動については、2005年から「TOTO水環境基金」が設立され、2008年までに5か国、32都道府県、のべ69団体に対して1億円以上の支援を行っているということでした。

また創立90周年記念として2006年に、全国のグループ社員誰もが長く参加でき、「水環境基金」ともつながる活動として「TOTOどんぐりの森づくり活動」が立ち上げられ、人間1人の呼吸に必要な1本の木を自らの手で植える活動が展開されており、2007年にはグループ全体で5万本を植えたとのことでした。

衛生陶器としての顔だけでなく、「水」を軸に文化や社会ともつながったこうした幅広い活動を展開していることを充分に知ることができた講演でした。

